戴度仇討也實　全

へ13
3075

95 へ13 3095
特 へ13 3075

藤井氏藏書

讀書心得之記

一可成丁寧ニ讀ベキ事
一破損及塗黑フベカラズ
一又貸ハ一切嚴禁之事
一火ノ上ニテ心ズ讀ベカラズ
一讀書中中央迄讀候節
ハ心ズ栞ヲ入置ベシ決シテ
本ヲ折ベカラズ

右之條箇ク相守可申者也

藤井氏藏書

再度敵討也實前帙

戀川春町作
北尾美丸画

乙酉新鐫

山口錦耕堂

丘氏之記

詞源

年々歳々花相似歳々年々人不同

春田安永天明の年間ハ神武以来稀ニ見ル大
難ニ屋ふ雷落とひびく雨ハ立く智慧はあ甲斐
なしハ昔春やむかしの恋我身ひとつハ元はた
だ冬籠せ光らくるとも出さじ
憂を紙く仙人ごひ乎うたんを糞ハ
雲川乃鯉ふ変る錦耕堂が見ん世乎ちり

文政八年乙酉春　作者　戀川春町と改

丘氏之記

櫻木次郎春綱郷

今和佐分
せんだんい
二紫は変ゝ

百ゑりや
る一ト
すぢ
ゑゝ

老女役
浦和

夫木　為家卿

ゑらのくれ
牧屋あらご屋
月のゑぞく
のゆまのねのめい
こゝろゑりゝ

櫻木家老臣
荒駒園之進是一

兼園

今あつよ色とれ
いそぎ出ぞ
あつよ
ぞね
枯よ
こころ
うけまと

櫻木次郎春綱姉君
浅那木姫

小性
此花

我おりの人のかくこと
なかれよ
なかれよ
ちんらん

柏木十内
忠之の
嬪妾

子
柏木
菊三郎
忠世

櫻木家老臣
柏木十内忠之

杜丹子
室宝

元禄のころ甚だと
りひ一人の匂ふ
男と見せ
きろい多紫
粉や
花のゆと

下部
弥助

三谷八右衛門
吉次

古画古筆ハ世ふ稀なるを宝とすれバ
壽夭
元ハ生を他人の
ものゝ
降るれバ
ものゝ
物とハ
いへども
ことなり

放生会

古今
集序

あさぢふ山
かげさへ
見ゆる
山ゐ井の
あさくも
人を
おもハ
ましやハ

山井判官爲久卿

川柳

柏木菊三郎が弟
吉野仙之助勝始

此巻ひらき
あるく
足ふまるる形

水仙ハ華もり
のちの花
おもてなれ
東毛庵

雪月花
出くる仙の
氣持り申
金波

貳

十月

地寶
前後合一冊

後編 哥川国定画

金子ちう

美丸画 春町作

東度

敵討

実録

後帙

歌川豊国門人
歌川国安画

錦耕堂梓

無酒弥陀

いるのとゆうえん
こころぐさるる
ひろぶこころと

むしやせねゆうえこの
うえんぶんのそんぞうと
ざこのこうけと
ありがてえそんぞうまつりのこと
いさぐらせまも
ふさやうんの
おまつりり
さえにあられ
しるべく
とおさせよ

やうんまきこうこくいのこうえ
こうれりりくこきまのりりとこ
ゆるこうーきこわーこべせこうあ
あけこれあのひこすれぶひぬ
きこうこうぶこうれバひとこ
あんーどこうぶこうひこうやそ
ゆこうここここうこうざこうとあのぶこうこ
ざこのつゆこうこうこもこうくせきこれ
おおすれどここうこうこけこべ
せんくここうくこうこぶこのりゆこと
ここのこうこうどこうこうけこくこえ
こうぶこうこきこここうぶこうここここ
とこうこせこうこうこうここのこうこ
ひゆここここのゆこんぶこうこここ
ーひこんがあゆこけくここきこうこ
ゆこのこうこうこれこうぶこうここ
こうどこうここーくこゆこあげこれハひ
きこここーゆこーここうゆこうこここ
んこうこうひここんぶこんこゆこあこりこ
おこうどおここハせこひこうこーここ
こくこれこりこうこくこのこうこ
いこうここここれこうこくこのこうこ
こうここここここここここここ
つこハこハこうこここここここ
ゆこのこりこあけここれれこトこ
せこここくこうこんぜこうこんのゆこうこと

ときは
えんとき
あの

作者
後編
十五葉
歌川國安画
戻川春町作
山井
小野小町秘方
精製
花王香
弘所
山口屋藤兵衛
義艶仙女香
山口
町貳丁